2017年春号
CRASH 便り
一般社団法人 クラッシュ ジャパン

「生み出され、届けられていく希望」

「この川が入る所では、すべてのものが生きる」＜エゼキエル 47：9＞

3月11日、12日と気仙沼、石巻で開催された「愛と希望のコンサート」に参加した。大震災後、地域のキリスト教会が協力しながら愛の心で関わり続けるひとつひとつの営みが、確実に地域の人々に希望となっていることが良く見える催しだった。

ところで、クラッシュ ジャパンの名称には、「希望」が含まれている。英語で CRASH Japan と記すが、Hはホープすなわち希望を意味している。Rの救援、Aの援助、Sの支援は災害発生から時間の経過を経て、それぞれの形態は変化していく。しかし、最初のCが意味するクリスチャンであることと、最後のHの意味する希望は決して変わらない。キリストにあるものとして、さまざまな行動で希望を生み出していくかが私たちのテーマだと思っている。

希望と関りがあることばに「弱い紐帯（ちゅうたい）の強さ」strength of weak ties という語がある。弱い、あるいは緩やかな絆といわれるものだ。ボランティアに行くという行為は、ある意味この弱い紐帯の見える化とも言える。災害復興支援という現場で、今までそれぞれ違う世界で生きている人たち同士が、さまざまな活動をしながら共に考え、悩みながらも一歩そして二歩と前に向かって動いていく。家族や親友ほどの強い紐帯ではないが、だからこそ新鮮でユニークな活動にもつながっていく。

「災害」は誰にとっても辛いことだが、災害がきっかけとなり、上記の弱く緩やかな絆も誕生していく。東日本大震災以降の東北のさまざまな地域で、そして昨年春に地震が起きた熊本でも、今までには考えられなかった人と人との繋がりができている。教会が地域の方々に安心と平安を届け、キリスト教団体が相互に協力し、地域教会に仕えている。今までには無かった組み合わせで「良い」ネットワークができ、そして地域に確かに「希望」を届けている。一過性の関係でなく、弱いまたは緩やかな絆ではあるけれど継続し続ける間柄で、希望が生み出されていく。

被災された方々のおられる地域でたびたび聞かれる「キリストさん」「教会さん」という呼称には、地域の方々の尊敬や親しみさえ感じられる。だからこそ、これからも「弱く緩やかな紐帯」の関係を大切にしていく活動が求められている。これからも地域で希望が生み出され、希望を届けていくために、ボランティア派遣は必要だ。

東日本大震災後、数々の団体やプロジェクトが生み出され、「行動によって何かを実現しようとする気持ち」からさまざまな活動がなされてきている。また首都圏を中心に進んでいる教会防災ネットワークの動きも、地域で事前に繋がりを作り、防災のために協力して次期災害に対応していこうという意思の表れである。このネットワーク作りは、希望を行動に移して見えるようにしている。

私たちは、これからも災害復興支援、心のケアとチャプレン、そして防災ネットワークという三つの領域の進展のために活動していきたい。日本のキリスト教界で、ハブとして、触媒としての機能を果たす使命もある。災害時に人々を支え、また災害に備えていく方法や形態は、時間そしてニーズとともに変化していく。私たちはこれからも柔らかな心で希望を届けていく器でありたい。

冒頭のみことばのように、クリスチャンたちがこれからもボランティアとして希望を携えて災害のあった地域に入っていき、その地域の人々と繋がり、良いものを創り上げていくことを祈る。それが成されていくために、クラッシュ ジャパンでは企画や運営に直接携わる器を求め続けている。教団や団体などから、復興支援と防災への思いのある方が派遣されてくる日が来ますように。

＜参考資料：聖学院大学ボランティア活動支援センター 2015 年度事業報告書＞

代表理事　永井敏夫

3.11 愛と希望のコンサート (左は気仙沼、右は石巻にて)

ウェブサイト、フェイスブックで最新情報を随時更新しております。ぜひご覧ください。

www.crashjapan.com　　www.facebook.com/crashjapan

防災・教会ネットワーク

栗原 一芳

１月９日は断食祈祷聖会にて、「自然災害と世界気象」のテーマでプレゼン。１月１０日は JETS（エキュメニカル災害タスクフォース）定例会にて「教会防災ネットワーク」のプレゼン。１月２８日は TEAM・SEND 宣教師たちのための防災セミナー（英語）。
２月１２日は、九州キリスト災害支援センターの中村陽志師をお招きして第二回「町田防災フェスタ」が行われた。２月１６日は東久留米市市民団体「防災まちづくりの会」定例会にて「教会防災ネットワーク」についてプレゼン。教会防災ネットワーク NHK（新座・東久留米・清瀬）、大久保通り教会防災ネットワークではすでに「初動体制」についての話し合いが始まっています。大久保ネットワークでは４月３０日（日）第二回の「防災フェスタ」が淀橋教会を会場に行われます。6月２６日(月)に行われる第３回「東京広域ネットワークフォーラム」の準備が始まっています。７月３０日には日本基督教団東京教区の集会にて「防災セミナー」予定。

クラッシュ ジャパンへの献金はこちらまで
＊郵便振替口座：00110-3-290907
名義：一般社団法人 クラッシュジャパン
＊銀行：三井住友銀行 神田支店（支店番号：219）
普通預金　口座番号：2931366
名義：一般社団法人 クラッシュジャパン

心のケア・チャプレン

岩上 敬人

２月 27 日（月）－３月１日（水）に災害対応チャプレン養成コース第三回研修会が開催されました。
クラッシュ ジャパンから郭ヘレン、岩上敬人、岩上真歩子の３名が講師として奉仕しました。
郭ヘレンは「ボランティア派遣と心のケアの基礎」、岩上真歩子は「アセスメントの基礎と実践」、岩上敬人・真歩子は「心的外傷後の成長〜ゆるし」について、それぞれ講義とワークショップを持ちました。九州キリスト災害支援センター、救世軍やオペレーション・ブレッシング・ジャパン、クラッシュ ジャパンの災害支援団体を中心に、約 40 名の方々が有意義な学びの時を持ちました。
３日間の研修を終えてある参加者の方から「一人でも多くの方にこのプログラムを受講していただき、今後、日本に起こるであろう災害にクリスチャンひとりひとりが準備して、神の愛の業を行う者として整えられていくことを願います」という声をいただきました。災害対応チャプレンコースがさらに用いられていくようにお祈りくださり、またこのプログラムにご参加ください。

チャプレン養成コースの様子

一般社団法人 クラッシュ ジャパン　www.crashjapan.com
〒 203-0013 東京都東久留米市新川町 1-2-12 松川プレイス 105 号
contact@crashjapan.com　042-410-1244